

会社も元氣・心も元氣・体も元氣

6月と7月は、ザックリと財務諸表(計算書類)の中の、貸借対照表と損益計算書についてお話いたします。

財務諸表とは、証券取引法に従った名称であり、会社法は、これを計算書類といえます。

貸借対照表とは、企業が経済活動を行っていく上での、一定時点(主に決算日現在)での資本の調達源泉と運用形態の釣り合いである「財政状態」を表し、資産・負債・純資産の有高を示し、連続する期間損益計算を連結する役割を果たしている。

損益計算書とは、一事業年度の全ての収益と費用を対応させて、企業の経営成績を示すものである。いわゆる、どのような活動から、いくら稼いだのかがわかる。

以上のようにそれぞれ定義づけられていますが、貸借対照表や損益計算書は、企業経営の結果が勘定科目や数字で表現されています。これらの書類で企業の全ての事柄が表現されている訳ではありませんが、企業の実態が表現されており、ある面、冷血であるとも言えます。貸借対照表は、○年○月○日現在とありますように、瞬間的な残高ではありますが、企業の長い年月の積み重ね(歴史)が表現されています。大きく次の3パターンに分けられますが、貴社では、どのパターンに当てはまるでしょうか?純資産は、返済不要の資金調達ですから、経営面からみると、純資産が多くある「一般型」が良いでしょう。

貸借対照表の勘定科目の金額を面積で示すと、ザックリとしたイメージとしては、業種の特異性にもよりますが左よりも右の方が良いのではないのでしょうか。

一般型

流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	純資産

資本食込型

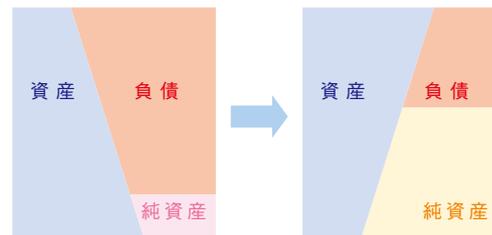
流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	純資産

債務超過型

流動資産	流動負債
固定資産	固定負債
	純資産

また、資金の動き(キャッシュフロー)と利益には、差が生じることが多いことを知っておく必要があります。したがって、損益計算書のみで経営判断をされるのではなく、貸借対照表やキャッシュフロー計算書と同じように経営判断の重要な指標とすることが必要になります。

貸借対照表のイメージ図



詳細は、7月の倉敷商工会議所経営セミナーで、お話させていただきます。



三宅税理士事務所

財務コンサルタント
経営学修士(MBA)

所長税理士 **三宅 孝治**

〒710-0803 倉敷市中島2370-14

TEL:086-466-1255

<http://www.cms-miyake.info>